

令和7年度 北海道函館聾学校 学校関係者評価

令和8年2月13日（金）に第3回学校運営協議会を実施しました。当日は、7名の委員の方、1名のオブザーバーの出席の中、本校の学校評価結果に対して御意見をいただきました。

1 施設・設備について

「保護者評価の施設設備のところの評価が低くて、でも先生方への評価が高いということは、少ない予算の中、先生方のマンパワーや努力でカバーしてるということだと思います。よって、もっと教育委員会が予算付けをして必要な設備だとか新しい教材だとかを整えるべきだと思います。また、研修にしても研究にしても、予算がなければ研修や研究にも行けないし、行ってきたものを、保護者あるいは私達に広めるにしても、予算だけではどうしようもないことである。先生方や保護者の皆様がやっている努力分の予算が投下されるよう要望していくと良い。」という御意見等をいただきました。

- 本校の校舎は建てられてから45年以上経過しており、ボイラー関係や水道系など様々な箇所が故障あるいは破損している状況である。経年劣化で、致し方ない部分ではあるが、子どもたちに安心・安全な教育環境を整えることも学校としての使命でもある。今後も子どもたちに安心・安全な教育環境を整えるべく、優先順位を考えながらその都度予算要望を行っていく。
- これまでも予算要望をして、全道の聾学校や関東、関西の聴覚障がい教育を行っている学校に視察研修に行かせていただいている。御意見いただいたように、予算がないと実現できないことなので、今後も可能な限り予算要望を行い、子どもたちへの教育の質の向上につなげていきたい。

2 保護者や地域、関係機関との連携について

「重複障がいの子どもの多くなっていることについて、同様に家庭環境も様々である。地域や家庭の環境を考慮して教育をどう進めていくのか考えないといけない時代になっている。そういうところに目を向けてると、先生方がすごく御苦労されて対処されていると思う。」という御意見をいただきました。

- 本校は幸い小規模校で、比較的個に応じた教育が可能となっている。同様に、各保護者に対しては常日頃から連絡帳や送迎の際のやり取りでコミュニケーションを取りながら連携を図っている。今後も各家庭の実情に応じて可能な限り柔軟に対応していく。ただ、教職員の働き方改革の観点についても保護者の御理解をいただきながら、家庭と地域、学校が一体となって子どもたちを育てていけるようにしていく。

3 教職員評価について

「先生方がいわゆる管理職と言われる人たちに意見を述べるということはすごく大事だと思う。そういう機会には、いろいろな意見が出ることもあると思う。逆に言うと、そういうことが言える学校運営なんだということが分かる。大きな賞を受賞した人権作文コンテストや北海道教育実践表彰受賞など、そういうところにしっかりと対外的な評価が出ているので、こういう対外的な評価が、学校運営の評価だと思う。対外的にきちんと評価をもらっていることに、先生方も自信をもって来年度も子どもたちの教育を頑張っていってほしい。」

→ 学校評価の結果を踏まえ、次年度より良い教育、より良い学校運営を目指していきたい。また、対外的な賞の受賞も大変嬉しいことである。子どもたち、教職員のモチベーションにも繋がってくる。また、今年度も報道戦略と称して、子どもたちの行事などを報道機関に周知して、取材に来ていただく取組も行っている。子どもたちは、自分たちの活動が新聞などに掲載されることで、大変励みにもなり、教育の質の向上にも繋がっている。次年度も子どもたちの意欲向上に向けて報道戦略を継続していく。

4 研究・研修の充実について

「聴覚障がいの教育に関する専門性については十分あると思う。いわゆる知的障がいの子どもへの配慮とか、あるいは発達障がいの子どもへの学習指導みたいなものは、例えば、同地区の特別支援学校と情報交流をしたりとか、研修の講師としてアドバイスを受れたりとか、そういう機会を作ってみてはどうか。」

→ 現時点ではそのような取組は行ってこなかったが、道南地区の特別支援学校とは連携を取ることができているので、今後はそのような学校などから専門的なことを学ぶことができるよう模索していきたい。

5 子どもたちの受賞について

「ここ数年実物実体験というところに丁寧にこだわって、それが子どもたちの深い学びに繋がってる。今回は作文で受賞したが、数年前は防災の関係でユネスコの賞もいただいて、評価を受ける機会があった。例えば、このようなものを、近隣の小学校・中学校の子どもたちに伝えるという機会をもてないものか。例えば、防災の発表をした内容は、近隣小学校の防災の授業のときに、講師として行って伝えると子どもたちもすごい学びに繋がる内容だと感じている。また、今回受賞した作文も、まさに地域で活動している大人たち、民生委員や高齢者を支える在宅福祉の方など、そういった方々が聞く機会があると、その活動の動機付けにもなる。すごく心に刺さる文章だということを強く感じた。例えば、その集まりの研修会の前段で、この作文を生徒に発表していただくというようなことができたらと思う。その場に行き、誰かに何かを伝えるというのは、自己肯定感が高まったり、地域の認識も変わったりすると思うので、そういう場が地域で必要ということがあれば調整したいと思う。」

→ 前回受賞した防災マップについても、町内会の皆様に来ていただいて発表し、事後指導に繋がる大変良い機会であった。また、今回受賞した人権作文も、表彰式の場で手話を付けて発表するなど、受賞した本人にとっても自己肯定感に繋がったと感じる。場所や時間帯など調整が必要になってくるが、地域に出向いて発表をすることの教育的意義も考えながら、教育活動の計画を検討していけたらと思う。